

学位論文要約

言語生活の拡張を志向する説明的文章学習指導の研究

—中学校カリキュラムの検討を中心として—

広島大学大学院教育学研究科

文化教育開発専攻 国語文化教育学分野

D152605 舟橋 秀晃

1. 研究の目的と方法

(研究の目的)

国語科説明的文章学習指導では、社会科や理科でない国語科独自の「自律性」が追究されてきた。だが、社会的構成主義学習観に立つエンゲストロームの拡張的学習理論に依れば、その「自律性」は学校学習の「カプセル化」の問題として批判的に捉え直されることになる。

ソーシャル・メディアの発展につれ内向化傾向が目立ってきた学習者の言語生活を向上するには、学校学習の「カプセル」化と学習者の言語生活の内向化に抗い、彼らの言語生活の拡張を志向する説明的文章学習を構築する必要がある。そのためには、筆者の論理を追う読みの力に加え、読者自身が論理的に考え議論に参加するような読みの力を学習者に育てる必要もあって、それにはトゥールミン・モデルなどの非形式論理学的知識が欠かせないはずである。しかしながら、現状では中学生の根拠確認や論証評価の実態には課題があるとの指摘がある。その要因には実践者に広く見られる論理観の混乱があり、その背景には学習指導要領の問題もある。

これらをまとめると、国語科説明的文章学習指導の現状は、次の三つの課題を抱えていると言える。①読解指導からメディア・リテラシーへの接続に課題がある。②中学校段階での系統性にお不明確な部分がある。③説明的文章教材の論理の捉え方に関し、混乱が続いてきた。

本研究は、①～③の現状にまつわる諸課題を解明するために、稿者が反省的実践家を志し実践の理論化と理論の実践化を図ろうとしてこれまでに進めてきた一連の研究を整理統合し補うとともに、特に課題の多い中学校段階について、国語科説明的文章学習において論理的に読む能力を育成するためのカリキュラム・モデルを具体的に提案しようとするものである。

(研究の方法)

本研究では、学習観の基礎に社会的構成主義に基づくエンゲストロームの拡張的学習理論を置く。またその不足を補うべく、学習者の能力発達の垂直次元的系統の設定にはクーンの「個人の認識論」の知見、学校学習を社会的文脈へ接続する水平次元的系統の設定には「間テクスト性」に関する議論を参照する。これにより説明的文章の読みを教科書教材の外へ拡張する学習の方途と道筋を探るとともに、自実践の到達点も述べる。その手順は、次の通りである。

第1章では、言語生活の拡張を志向する説明的文章の読みの国語科カリキュラムを設計するにあたり、①～③の現状が生じる背景を探るため、先行研究の主要な動向と課題を把握し検討する。まず国語教育におけるカリキュラム研究の全体状況を確認する(第1節)。次に説明的文章の能力論の問題状況(第2節)と、読むことの教材論における問題状況(第3節)を捉える。そして、浮上した諸課題を能力面(I)、教材面(II)、学習活動面(III)の三側面から整理し直し、研究課題を再設定する(第4節)。

第2章では、言語生活の拡張を志向する説明的文章の読みに必要な能力(I)の発達の道筋を、どのように捉えるべきかを検討する。まず説明的文章教材の読みの能力を、単に文字や語句の意味が分かるといった程度に留めず積極的に、〈説明的文章の意味と意義・価値を理解し自分の考えをもつ能動的な読書行為〉であると規定する(第1節)。次いで、エンゲストロームの拡張的学習理論から系統性を垂直次元と水平次元の2方向で捉える示唆を得て、説明的文章学習との対応を検討する(第2・3節)。そして、垂直次元では「個人の認識論」、水平次元では「間テクスト性」を援用して系統の各段階を設定する(第4節)。

第3章では、小中学校国語教科書に掲載されている説明的文章教材(II)が内包する系統性の分析を通して、第2章で設定した垂直次元と水平次元の系統性と対応する要素が既存の教科書教材にも存在することを確認する。その上で、特に中学校段階において学習による言語生活

の拡張を図るのに、主教材としての教科書教材以外にどのような教材を追加し得るのか、その可能性を探る。はじめに教科書教材分析の先行研究を概観する（第1節）。次に国語教科書の説明的文章教材について、小学校教材の系統性を先行研究結果から見出す（第2節）。また、中学校教材の系統性を独自に分析する（第3節）。その上で、中学校における国語教科書教材と併せて必要な教科書外教材の種別・配列のモデルを例示する（第4節）。

第4章では、国語教科書の外へ説明的文章の読みを拡張する学習活動（Ⅲ）がどのような構造をもち得るかを検討する。まず、拡張しやすい効果的な策である「教科書教材に他の教材を組み合わせる読む学習活動に取り組んだ小中学校の実践」について、これまでの実践を収集し観察して学習活動の類型を見出す（第1節）。次に、文章の外の社会的文脈から文章を分らせるのではなく、学習者各々の個人の文脈に立脚した学習活動を生む策としての、〈仮想的状況〉を設定することと〈書かれなかったこと〉をも吟味させることの有効性を述べる（第2・3節）。最後に、本章を通して論じた学習活動のあり方を、垂直・水平2方向の系統性を踏まえ、概括して述べる（第4節）。

第5章では、言語生活の拡張を志向する説明的文章の読みの中学校国語科カリキュラムを設計する。まず、前章までの各章を再整理し、読みの拡張を志向する説明的文章学習指導のカリキュラム理論とそれに基づく中学校カリキュラム・モデルをまとめて示す（第1節）。次に、カリキュラムの観点から学習指導実践個体史を検討する（第2節）。そして第1節のカリキュラム理論に基づき、個体史上課題の残っている第2学年について単元計画を立て、実施と検討を経て、小中学校9年間のカリキュラム設計の一つのあるべき姿を具体的に示す（第3節）。

終章では、本研究の成果を総括し、また今後の展望として①～③の現状への提言も行う。

2. 論文の構成

序章 研究の目的と方法	—————	1
第1章 先行研究の検討	—————	9
第1節 国語科カリキュラム研究の主要な動向と課題	……	9
第2節 国語科説明的文章学習指導における論理観の整理と課題		
—筆者・読者それぞれの論理に着目して—	……	19
第3節 小中学校国語科「読むこと」教科書外教材の位置の変遷と議論		
—よき典型から練習教材への教材概念拡張の動きと異論—	……	32
第4節 国語科説明的文章学習指導における諸課題の整理と課題の再設定	……	45
第2章 言語生活の拡張を志向する説明的文章の読みの能力とその系統	———	47
第1節 社会的文脈を扱う理論の必要性と課題		
—トゥールミン・モデルの限界を超えるために—	……	47
第2節 エンゲストロームの拡張的学習理論の検討		
—内容・形式両立のための水平・垂直2方向での捉え直し—	……	57
第3節 社会的文脈を扱う理論の国語科説明的文章学習との対応	……	67
第4節 読みの能力の垂直次元と水平次元における系統性の検討		
—「個人の認識論」と「間テクスト性」を踏まえて—	……	73
第3章 小中学校国語教科書教材の系統性と補助教材との関係	—————	85
第1節 説明的文章の教科書教材分析に関する先行研究概観		
—教科書と言語生活をつなぐ非形式論理的知識への着目—	……	85

第2節 先行研究から小学校教科書教材に見出される系統性	
—論理的思考の発達と社会的文脈からの距離—	…… 92
第3節 分析から中学校教科書教材に見出される系統性	…… 98
第4節 教科書教材の実態と垂直・水平系統性仮説との対応	…… 115
第4章 言語生活の拡張を志向する説明的文章学習活動の構造	119
第1節 拡張の観点から見た小中学校説明的文章学習活動の類型	…… 119
—社会的文脈への接続の方途としての読解指導と読書指導との連関の可能性—	
第2節 個人の文脈と社会的文脈とを相補的に扱う学習活動の類型	…… 137
第3節 社会的文脈を教材文のみから想起させる方法としての〈書かれなかつたこと〉吟味の可能性	—情報科での実践例を踏まえて— …… 159
第4節 垂直・水平2方向での系統的な学習活動の展望と課題	…… 172
第5章 言語生活の拡張を志向する説明的文章学習指導の国語科カリキュラム	175
第1節 言語生活の拡張を志向するカリキュラム理論の整理	…… 175
第2節 カリキュラムの観点から見た説明的文章学習指導実践个体史の検討	…… 189
第3節 課題解決のための実験授業とその検討	…… 214
終章 研究の総括と展望	239
第1節 研究成果の総括	…… 239
第2節 今後の展望	…… 247
参考文献	253

3. 各章の概要

(第1章)

第1章では、国語科カリキュラム研究(②と対応)、説明的文章学習指導における実践研究における論理観(③と対応)、学習指導要領における教科書外教材の位置の変遷とそれをめぐる議論(①と対応)に関する検討を通して、説明的文章の読みの国語科カリキュラムの研究課題を再設定した。

第1節では、中学校における段階の設定や系統性の説明になお解明の余地があることが分かった。また、他者がいてこそ必要になるのが論理であるから論理性がその教材性の中核である説明的文章学習指導でこそ社会的構成主義学習観のもとでの「垂直的アプローチ」(論理的認識や論理的思考力の系統的深化)と「水平的アプローチ」(教室に在る他者や筆者あるいは他の書物や市井の人々などとの対話による水平的相互作用の系統的拡大)の統合された姿を提示する必要があることも分かった。

第2節では、筆者と読者それぞれの認識の論理と表現の論理とを区分し、読者に筆者の認識・表現の論理を検討する練習をさせつつ読者自身の「認識の論理」構築の力を育成する方法を開発する必要があることが分かった。

第3節では、教科書外教材を使う際に今後主要な論点となり得るのが「誤りや問題をどの程度取り除き、系統性にどの程度配慮するか」であることが分かった。そして、教科書教材の典型性と教科書外に求める練習素材の幅広さを組み合わせるとどのようなカリキュラムを構想し得るのかが大きな課題になると捉えた。

第4節では、以上の各節に記したカリキュラム設計上の諸課題がカリキュラムを構成する中心的要素である能力、教材構成、学習活動構造が絡み合っていることから、これら諸課

題を能力面（Ⅰ）、教材面（Ⅱ）、学習活動面（Ⅲ）に分け、それぞれが何であるか（a）とそれらをどのように扱うか（b）の二つの観点から次のように再設定した。

I：能力面 育成すべき能力とその発達の系統（第2章）

a 説明的文章の読みの能力とはどのようなものであるか。（第1～3節）

b 読みの能力の垂直次元の系統性と水平次元の系統性はどのように設定し得るか。（第4節）

II：教材面 使用すべき教材とその構成（第3章）

a 説明的文章の読みの教材とはどのようなものであるか。（第1～3節）

b 教科書教材と教科書外に求める教材はどのように取り扱うとよいか。（第4節）

III：学習活動面 仕組むべき学習活動とその構造（第4章）

a 教科書教材と教科書外教材を組み合わせる学習活動にはどのようなものがあるか。（第1節）

b 学習活動において個人の文脈と社会的文脈はどのように取り扱うとよいか。（第2～4節）

（第2章）

第2章では能力論（Ⅰ）を展開した。説明的文章の読みに必要な能力の発達の道筋を、主にエンゲストロームの拡張的学習理論に求め、系統性を垂直次元と水平次元の2方向で捉える示唆を得た。そして、垂直次元では「個人の認識論」の知見を援用し、水平次元では「間テクスト性」をめぐる議論を参照して系統の各段階を設定した。

第1節では、議論は社会的文脈に依存して行われるにも関わらず、トゥールミン・モデルの中に文脈が位置づいていないことと、形式面と内容面の指導の両立は、現代的理解としては論理形式と文脈との照合によって図られるべきであることを指摘した。そして、説明的文章の読みを〈説明的文章の意味と意義・価値を理解し自己の考えをもつ能動的な読書行為〉だと積極的に規定すれば、読みの能力を垂直的だけでなく水平的にも捉えられることを論じた。

第2節では、発達を水平的にも説明できる理論として、エンゲストロームの拡張的学習理論を取り上げた。氏の言う「拡張的学習」は実現が非常に困難であるが、学校学習と「拡張的学習」とを架橋するものとして氏が唱えた「探究的学習」には大村はまの単元学習などの先行実践にも見出せそうな要素が多々あり、国語科への適用が充分可能であることを示した。

第3節では、第1～2節の理論と説明的文章学習との対応を検討した。エンゲストロームは言語を学習する際の水平的（空間的・社会的）次元と垂直（時間的・歴史的）次元について、それぞれの序列やレベルを何に見出すべきかについてまでは、特に論じてはいなかった。

第4節では、そこでエンゲストロームの理論を補うために、「個人の認識論」を援用して垂直次元の系統性、「間テクスト性」に関する議論を参照して水平次元の系統性を示した。中学校は「馴化」の時期にあたるので、垂直次元面において中学校では螺旋的に、再び現実主義者レベルから学習を開始して第3学年では評価主義者に到達するようなシーケンスをもつカリキュラムを設計するのが望ましいことを指摘した。また、説明的文章は国語科としての生活世界と学問的世界との統合的世界を有するが、小学校では生活世界、中学校では学問的世界にその軸足があるので、水平次元面において中学校では螺旋的に、学問的世界に軸足を置き直して改めて生活に根ざし社会へ視野を広げていくような段階性を設定するとよいことを指摘した。

（第3章）

第3章では教材構成論（Ⅱ）を展開した。小中学校国語教科書の説明的文章教材が内包している系統性を分析し、第2章で設定した垂直次元・水平次元の系統性と対応する要素が既存の

教科書教材にも存在することを確認した。その上で、特に中学校段階において学習による言語生活の拡張を図るのに、主教材としての教科書教材以外にどのような教材を追加し得るのかを探究した。

第1節では、教材分析に関する先行研究を概観した。教材のもつ典型性は本来、エンゲストロームの言う「作業仮説」としてこそ取り扱われるべきであり、今後は「普遍性」や「標準性」のあるものや、かつて排除された説明書きも含めて積極的に教科書教材や補助教材に位置づけるべきであることを論じた。

第2節では、小学校教科書教材が内包する系統性について、非形式論理的知識を踏まえて分析した先行研究を検討した。学習者の論理的思考の発達に沿って、扱う「事実」の抽象度を次第に高めつつも、典型性をもつ国語科教材としての「統合的世界」を自律的に保ち、社会的文脈からは距離を取っているという系統性が備わっていた。

第3節では、中学校教科書教材が内包する系統性について、話題主義的な光村図書と技能主義的な東京書籍を対象に据え、学年ごとに第1学年では事実、第2学年では理由づけ、第3学年では主張に特に着目して、質とその変化の様相を観察した。両社の教材の実態には第2章で明かした系統性と矛盾がないことが分析できた。

第4節では、第2～3節の結果を第2章の仮説と照合し、教科書の主教材に教科書所収の補助教材を組み合わせたたり教科書外教材を加えたりすることで、学習者の読みを学校学習から拡張するカリキュラムを構想するのが効果的であると考えられた。そこで、現行教科書を調査し、小学校では学習者に適度な負荷のかかるモデル素材が既に掲載済みであるが中学校では補助教材があまり掲載されていないことを明らかにした。それゆえ、中学校ではより積極的に教科書外の言語素材を教材化し、主教材と組み合わせる必要があると考えられた。

(第4章)

第4章では学習活動構造論(Ⅲ)を展開した。その概要としては、教科書の外へ読みを拡張する学習活動はどのような構造をもち得るかを検討した。

第1節では、第3章で導き出した策としての「教科書教材に他の教材を組み合わせる読む学習活動に取り組んだ小中学校の実践」事例を収集し、学習活動の種類の観察から、学習者個人の文脈の表出を教材の読みに並行よりはむしろ先行させる展開を採る学習活動を、今後は学年が上がるにつれ一層重視していく必要があることを明らかにした。

第2節では、稿者自身の二つの実践事例を取り上げて検討し、文章の外の社会的文脈から文章を分らせるのではなく学習者各々の個人の文脈に立脚した学習活動をつくるには、「実の場」でなくとも〈仮想的状況〉を設定すればそれが学習活動に有効に作用することを、状況論を踏まえて明らかにした。

第3節では第2節のほかに、個人の文脈に立脚して眼前の文章を読み込み、それだけで社会的文脈を想起する別パターンでの学習があり得るかを検討するため、稿者が勤務していた中学校で独自に「情報科」を開発した実践事例を参照し、「書かれなかったこと」を意識することで社会的文脈を知らずとも想起できる可能性があることを示した。

第4節では、本章を通して論じた学習活動のあり方を、垂直・水平2方向での系統性を踏まえて概括した。本章で論じた〈仮想的状況〉の設定による単元導入例や、市井の文章や教科書教材の文章が一つしかなく比べる対照がない場合の四分画法や樹形図などの使用による単元展開例は、学習者の生活世界の外にある「見えないもの」を取り上げた文章で〈書かれなかったこと〉までも授業の中で文章を通して認識し吟味できることを示し得た。ただし文脈を離れたこれらの方法の利用は、国語科においては補助的な手段に留まるものであろう。

(第5章)

第5章では、前章までの各章を総合し、言語生活の拡張を志向する説明的文章の読みの中学校国語科カリキュラムを設計し、その有効性を実証した。

第1節では、第4章までに展開した能力論、教材構成論、学習活動構造論を整理し、それらを統合する形で、読みの拡張を志向する説明的文章学習指導のカリキュラム理論とそれに基づく中学校カリキュラム・モデル(試案)を設定した。まず能力の発達の系統性を水平次元と垂直次元から説明し、それが螺旋的に生活世界から学問的世界へ移行する中に中学校の「評価主義者」段階があることを改めて述べた。そして、教科書教材の学年配列に依拠しながら、教科書外に組み合わせる教材の種別や内容の配列と、個人の文脈を先行させながら〈仮想的状況〉を設定し読書指導と連関ないし往還する単元の学習構造の案を、まとめて提示した。

第2節では、カリキュラムの観点から中学校における稿者の学習指導実践个体史を検討した。まず時系列に个体史を綴り、次いで第1節と対応させる形で実践したカリキュラムを提示するとともに、その課題を示した。

第3節では、第1節のカリキュラム理論から把握される稿者の学習指導実践个体史上の未解明課題について、特に課題の多かった中2段階での実験授業単元を中学校カリキュラム・モデル(試案)に基づいて設計し実施して、検証を進めてきた。その課題とは、中学校第2学年における「理由づけ」の学習指導上の問題であった。これを克服するために本研究によって理論的に導かれる、教科書外教材の組み合わせ方と〈仮想的状況〉の設定の仕方を改善した実験授業を実施し、授業仮説を検証することで、理論と実践により提案した中学校カリキュラム試案の有効性を実証した。その結果、設計時に立てた授業仮説は総じて実証され、本研究で整備したカリキュラム理論の有効性が確認できた。

(終章)

終章では、第1節で第2章から第5章までの研究成果を総括し、第2節では前節を踏まえ序章の課題①～③に立ち返って、現状に対する今後の展望を提言した。

第2節で今後への展望として述べた提言の骨子は次の通りである。

- 1 読解指導からメディア・リテラシーへの接続に課題があること(①)について
 - (1) 小学校高学年から中学校段階でこそ読解指導と読書指導との連関をめざす
 - (2) 教科書教材を「典型」としてでなく「仮説」として扱う
 - (3) 試行錯誤と再挑戦の過程を単元内に保障する
 - (4) 「実の場」か〈仮想的状況〉を単元に用意する
 - (5) 「個人の文脈」を先行させ二つの「社会的文脈」へつなぐ単元展開を心がける
- 2 説明的文章教材の論理の捉え方に関し混乱が続いてきたこと(③)について
 - (1) 読者の「表現の論理」把握と「認識の論理」構築を重視する
 - (2) 論理的に読むことによって学習者に修辞の効果を検討させるようにする
 - (3) 非形式論理的知識を「情報の扱い方」として重視する
- 3 中学校段階での系統性になお不明確な部分があること(②)について
 - (1) 当該学年の段階とその年間に扱う各教科書教材の特性を意識する
 - (2) 第1学年においては「事実の見方」を重点的に扱う
 - (3) 第2学年においては「理由づけ」を重点的に扱う
 - (4) 第3学年においては「主張とその意義や価値」を重点的に扱う

4. 参考文献

【英文】

Kuhn, D. (1999). *A developmental model of critical thinking*. *Educational Researcher*, **28**, 16-26.

【翻訳】

Browne, M. N., & Keeley, S. M. (2001). *Asking the Right Questions: A guide to critical thinking*. (6th ed.) Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall. (M. ニール・ブラウン, スチュアート・キーリー(2004) 森平慶司訳『質問力を鍛えるクリティカル・シンキング練習帳』PHP研究所)

Engeström, Y. (1987). *Learning by expanding*. Helsinki: Orienta-Konsultit Oy. (エンゲストローム・Y (1999) 山住勝広, 松下佳代, 百合草禎二, 保坂裕子, 庄井良信, 手取義宏訳『拡張による学習—活動理論からのアプローチ』新曜社)

Engeström, Y. (1994). *Training for change : new approach to instruction and learning in working life*. Geneva, Switzerland : International Labour Office. (エンゲストローム・Y (2010) 松下佳代, 三輪建二監訳『変革を生む研修のデザイン—仕事を教える人への活動理論』鳳書房)

エンゲストローム (2010) 「日本語版への序 インターネットとグローバル化の時代における本書の意味」(エンゲストローム・Y (2010) 松下佳代, 三輪建二監訳『変革を生む研修のデザイン—仕事を教える人への活動理論』鳳書房, i-iii.)

* 邦訳書のための書き下ろし

Pritchard, A., & Woollard, J. (2010). *Psychology for the classroom : constructivism and social learning. Psychology for the classroom series*. London: Routledge. (A・プリチャード, J・ウーラード(2017) 田中俊也訳『アクティブラーニングのための心理学 教室実践を支える構成主義と社会的学習理論』北大路書房)

Toulmin, S. E. (1958). *The uses of argument*. Cambridge : Cambridge University Press. (ステイーブン・トゥールミン(2011) 戸山田和久, 福澤一吉訳『議論の技法 トールミンモデルの原点』東京図書)

Zechmeister, E. B., & Johnson, J. E. (1992). *Critical thinking: A functional approach*. Pacific Grove, CA : Books-Cole. (E. B. ゼックミスタ, J. E. ジョンソン(1996) 宮元博章ほか訳『クリティカル シンキング 《入門篇》』北大路書房)

【和文】

相澤秀夫(1986) 「文章の個性と論理を読みとる」『教育科学国語教育』368号 明治図書, 78-83.

青山之典(2014) 「間テクスト性に着目して, 表現主体の背景を想定することの意義—説明的文章の読みの指導に焦点をあてて—」『比治山大学紀要』21号, 131-142

青山之典(2015) 『論理的認識力を高めるための説明的文章の読みに関する小学校国語科スパイラルカリキュラムの開発』https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/38648/20151222094250394370/k6620_3.pdf (2017年9月30日確認)

- 青山由紀(2008)「メディアと言葉が行き来する単元の構想」『月刊国語教育研究』437号 日本国語教育学会, 10-15.
- 安彦忠彦(1999)「第七章 カリキュラムの評価的研究」安彦忠彦編『新版 カリキュラム研究入門』勁草書房, 181-207.
- 安彦忠彦(2006)『改訂版 教育課程編成論—学校は何を学ぶところか』放送大学教育振興会
- 阿部昇(1999)『『構造』『論理』『吟味』『月刊国語教育』223号 東京法令出版, 86-91.
- 安藤修平(1987)「戦後中学校国語教材の史的展開〈その1〉」全国大学国語教育学会『国語科教育』第34集, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 69-82.
- 幾田伸司(2007)「反論するということ」『月刊国語教育研究』421号 日本国語教育学会, 36-37.
- 幾田伸司(2009)「メディア・リテラシー教材としての伝記の可能性」日本国語教育学会『月刊国語教育研究』442号, 52-59.
- 幾田伸司(2013)「教科書教材史研究」全国大学国語教育学会『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』学芸図書, 177-184.
- 池田雅則(2012)「現行の教育課程に定められた政策意図—08年改訂『中学校学習指導要領』における選択教科の取り扱いに着目して—」『兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要』第19巻 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所, 17-30.
- 石森延男(1971)「国語教科書私見」『国語の教育』No.37(正)・No.39(続) 国土社, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 357-375.
- 井関義久(1976)「国語学習材試論—精選のめやす—」『季刊国語教育誌』第18号 全日本国語教育学会, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 264-276.
- 位藤紀美子ほか(2014)『言語コミュニケーション能力を育てる—発達調査をふまえた国語教育実践の開発』世界思想社
- 犬塚美輪, 椿本弥生(2014)『論理的読み書きの理論と実践—知識基盤社会を生きる力の育成に向けて—』北大路書房
- 井上一郎(1989)「読者の論理」『教育科学国語教育』414号 明治図書, 21-24.
- 井上尚美(1976)「トゥルミンの『論証モデル』について」東京学芸大学『東京学芸大学紀要』第2部門人文科学 27, 151-160.
- 井上尚美(1977)『言語論理教育への道—国語科における思考—』文化開発社
- 井上尚美(1980)「シンポジウム 国語科における論理的思考力の育成 提案Ⅱ」全国大学国語教育学会『国語科教育』第27集, 9-15.
- 井上尚美(1989)『言語論理教育入門—国語科における思考—』明治図書
- 井上尚美, 福沢周亮(1996)『国語教育・カウンセリングと一般意味論』明治図書
- 井上尚美(1998)『思考力育成への方略—メタ認知・自己学習・言語論理—』明治図書
- 井上尚美, 大内善一, 中村敦雄, 山室和也(2012)『論理的思考をを鍛える国語科授業方略 中学校編』溪水社
- 井上雅彦(2008)『伝え合いを重視した高等学校国語科カリキュラムの実践的研究』溪水社
- 井上裕一(1998)『説明的文章で何を教えるか』明治図書
- 岩井伸江(2000)「伝え合う力を高める国語科授業」『実践国語研究』No.213 明治図書, 102-106.
- 岩田道雄(1999)「論理的な思考力を国語科でどう育てるか」『月刊国語教育』226号 日本国語教育学会, 24-27.
- 岩永正史(2000)「説明文教材の論理構造と読み手の理解—彼らはどのように『論理的に』考え

- るのか—」井上尚美編集代表『言語論理教育の探究』東京書籍, 212-227.
- 岩永正史(2007)「小学校説明文教材系統案作成の試み(1)」『山梨大学教育人間科学部紀要』第9巻, 114-121.
- 岩永正史(2009)「小学校説明文教材系統案作成の試み(2)」『山梨大学教育人間科学部紀要』第11巻, 91-98.
- 岩永正史, 皆川恵子(2013)「小学校説明文教材系統案作成の試み(3)」『山梨大学教育人間科学部紀要』第15巻, 113-119.
- 岩本一(2001)「間テクスト性—その展開と関連性について—」『dialogos』1号(東洋大学文学部紀要 第54集 英語コミュニケーション学科篇), 39-57.
- 岩本初美(2004)「筆者に寄りそって読み取り自分の考えを持つための手立て」『実践国語研究』No.258 明治図書, 93-96.
- 植山俊宏(1987)「説明的文章の読みの過程」広島大学教科教育学会『教科教育学会紀要』4号, 『国語教育基本論文集成』第15巻 明治図書, 525-548.
- 植山俊宏(1990)「論理的認識力育成を軸とした説明的文章の読み」『教育科学国語教育』434号 明治図書, 35-39.
- 植山俊宏(1998)「説明文実践の質的検討—納得自覚の観点に基づいて—」全国大学国語教育学会研究発表資料
- 宇佐美寛(1992)「論理的表現の能力」『月刊国語教育』459号 東京法令出版, 89-93.
- 宇佐美寛(1993)『「議論の力」をどう鍛えるか』明治図書
- 氏川雅典(2007)「トゥールミンの議論モデルの変容 —批判から寛容へ—」『ソシオロゴス』No.31, 1-19.
- 大内善一(2011)『「国語単元学習」の生命線としての『実の場』』『月刊国語教育研究』476号 日本国語教育学会, 36-37.
- 大久保忠利(1953)「国語の教科書をえらぶ心構え」『実践国語』第14巻第153号 穂波出版社, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 329-336.
- 大熊徹(1987)「論理的思考力育成と文章論」『教育科学国語教育』385号 明治図書, 31-36.
- 大河内義雄(1996)「論理的に考える技術を教える教材の充実を」『教育科学国語教育』519号 明治図書, 19-23.
- 大島純(2004)「新しい学習理論と教室への応用」波多野誼余夫, 大浦容子, 大島純編著『学習科学』放送大学出版会, 133-142.
- 大塚みどり(2004)「主体的に文章を読み, ものの見方・考え方を深めさせる」『実践国語研究』No.258 明治図書, 78-79.
- 大槻和夫(1975)「小国=わかる授業と教材精選の視点」『授業研究情報』7 明治図書, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 179-191.
- 大西忠治(1971)『「論理読み」を主体として』『国語の教育』42号 国土社, 82-87.
- 大西忠治(1981)『説明的文章の読み方指導』明治図書
- 大村はま(1983)「単元 表現くらべ(昭和五十四年十月 石川台中学校一年)」, 大村はま『大村はま国語教室 第9巻』筑摩書房, 375-417
- 大村はま(1983)「講演 ひとりひとりを育てる国語の授業」大村はま『大村はま国語教室 第11巻』筑摩書房, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 250-263.
- 大村はま(1996)『新編 教えるということ』ちくま学芸文庫
- 岡本明人(1996)「ディベートで教えられる『論理的思考』」『教育科学国語教育』527号 明治

図書, 13-16.

- 小川末吉(1971)「新国語科教科書の人間像について」『教育科学国語教育』No.147 明治図書, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 393-408.
- 奥泉香(2015)「メディア・リテラシー教育の実践が国語科にもたらした地平」浜本純逸監修 奥泉香編『メディア・リテラシーの教育 理論と実践の歩み』溪水社, 5-18.
- 小田迪夫(1978)「必要条件として生かすべき提案」『文芸教育』24号 明治図書, 集成(15)240-250.
- 小田迪夫(1979)「シンポジウム 国語科における論理的思考力の育成 提案Ⅲ」全国大学国語教育学会『国語科教育』第27集, 15-20.
- 小田迪夫(1984)「論理形成の読みと論理吟味の読み」日本国語教育学会『月刊国語教育研究』146号, 7-11.
- 小田迪夫(1986)『説明的文章の授業改革論』明治図書
- 小田迪夫(1994)「連載 論理的表現の基礎訓練学習 論理と論理的表現」『教育科学国語教育』490号 明治図書, 115-119.
- 小野田博一(2002)『論理思考力を鍛える本 問題演習』日本実業出版社
- 小野寺泰子(2015)「43 複数教材」『国語科重要用語事典』明治図書, 54.
- 甲斐伊織(2010)「アプロプリエーションの立場からみた国語科教師の役割」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊』18巻1号, 21-31.
- 甲斐利恵子(1994)「ディベートまでの指導とディベートの指導 単元 意見に意見を重ねて～話し合いウォーミングアップ～ 一年生」安居總子, 東京都青年国語研究会『中学校の表現指導 聞き手話し手を育てる』東洋館出版社, 128-149
- 科学的『読み』の授業研究会(2010)『国語科教育内容の系統性はなぜ100年間解明できなかったのか—新学習指導要領の検証と提案』学文社
- 片山順也(2010)「比べ読みで評価できる読み手を育てる」『月刊国語教育研究』日本国語教育学会459号, 58-65.
- 可知悦子(1999)「読み手の体験を通して論理的思考力を」『国語の授業』152号 一光社, 14-19.
- 加藤咲子(2008)「『入力—思考—出力』を意識する」『実践国語研究』No.290 明治図書, 55-58.
- 河合正直(1984)「論理展開の個性を読む」日本国語教育学会『月刊国語教育研究』146号, 22-26.
- 河野順子(1996)『対話による説明的文章セット教材の学習指導』明治図書
- 河野順子(2006)『〈対話〉による説明的文章の学習指導—メタ認知の内面化の理論提案を中心に』風間書房
- 河野順子(2016)「第2章第1節 『学びの履歴としてのカリキュラム』と『計画としてのカリキュラム』統合の必要性」, 全国大学国語教育学会編著(2016), 27-32.
- 菊池聡(1998)『超常現象をなぜ信じるのか 思い込みを生む「体験」のあやうさ』講談社
- 岸学(2004)『説明文理解の心理学』北大路書房
- 吉川芳則(2013)『説明的文章の学習活動の構成と展開』溪水社
- 倉澤栄吉(1948)「『国語教材』をどう見たらよいか」倉澤栄吉『国語学習指導の方法』世界社, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 86-91.
- 倉田真行(1985)「この説明文教材でどんな認識を育てるか 小学校六年 またとない天敵 金光不二夫」『文芸教育』47号 明治図書, 89-91.

- 黒尾敏(2004)「サブテキストを加工してメインテキストに挿入する」『実践国語研究』No.258 明治図書, 76-77.
- 黒尾敏(2007)「『もう一つの教材』をぶつけてみる」『実践国語研究』No.284 明治図書, 77-80.
- 幸坂健太郎(2012)「国語科教育に関する雑誌掲載論考における『論理』・『論理的思考』概念の調査—2000年以降の論考を対象として—」全国大学国語教育学会『国語科教育』第72集, 41-48.
- 香西秀信(1995)『反論の技術—その意義と訓練方法—』明治図書
- 甲田直美(2009)『文章を理解するとは—認知の仕組みから読解教育への応用まで』スリーエーネットワーク
- 光野公司郎(2002)「国語科教育におけるメディア・リテラシー教育—説明的文章指導(中学校第二学年)における批判的思考力育成の実践を中心に—」全国大学国語教育学会『国語科教育』第52集, 56-63.
- 光野公司郎(2004)『国際化・情報化社会に対応する国語科教育—論証能力の育成指導を中心に—』溪水社
- 光野公司郎(2005)「論理的な文章における効果的な構成指導の方向性—論証の構造を基本とした新しい文章構成の在り方—」全国大学国語教育学会『国語科教育』第57集, 60-67.
- 光野公司郎(2009)『「活用・探究型授業」を支える論証能力』明治図書
- 古賀洋一(2015)「中学校説明的文章教材の方略的読みの系統性—中学校二年生教材を中心に—」『論叢国語教育学』11号 広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座, 13-29.
- 国分一太郎(1963)「みたび『教材化』について」『教育科学国語教育』No.52 明治図書, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 92-102.
- 国立教育政策研究所(2002)『生きるための知識と技能—OECD生徒の学習到達度調査(PISA)2000年調査国際結果報告書』ぎょうせい
- 輿水実(1950)「進歩した国語教科書の要件」輿水実『国語科概論』有朋堂, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 302-310.
- 輿水実(1965)「国語教材の近代化」『教育科学国語教育』No.85 明治図書, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 12-20.
- 米田猛(1990)「筆者の論理と読者の論理」『教育科学国語教育』434号 明治図書, 79-82.
- 西郷竹彦(1978)「説明文指導のめざすもの」『文芸教育』24号 明治図書, 集成(15)210-240.
- 西郷竹彦(1997)『西郷竹彦 文芸・教育全集第22巻 説明文の指導』恒文社
- 西郷竹彦, 文芸教育研究協議会(2005)『文芸研・新国語教育事典』明治図書
- 佐伯胖(1994)「思考の状況依存性について: 領域固有性から文化的実践へ」一般社団法人電子情報通信学会『電子情報通信学会技術研究報告. TL, 思考と言語』94(378), 1-8.
- 坂本まゆみ(2007)「単元『異』文化との出会い・違いを豊かさに」『月刊国語教育研究』419号 日本国語教育学会, 52-57.
- さがわ・みちお(1957)「国語教育の体系をうちたてるために」教育科学研究会『教育』No.82, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 132-145.
- 三宮真智子「説明に対するメタ認知能力を高めるための『不完全な説明』教材導入の試み」『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』No.6, 25-28.
- 汐見稔幸(1989)「存在の論理, 思考の論理と言語の論理を照応させる能力を」『教育科学国語教育』414号 明治図書, 13-16.
- 柴田義松(2000)『教育課程—カリキュラム入門』有斐閣

- 柴田義松(2006)『ヴィゴツキー入門』子どもの未来社
- 渋谷孝(1980)『説明的文章の教材研究論』明治図書
- 渋谷孝(1984)『説明的文章の教材本質論』明治図書
- 清水香織(2002)「往還・進化する学習過程」『月刊国語教育研究』366号 日本国語教育学会, 24-25.
- 杉田あゆみ(2008)「言語活動を通して『読む力』を育てる」『実践国語研究』No.291 明治図書, 62-65.
- 杉田知之(1989)「論理を鍛える説明文の批判読み」『教育科学国語教育』405号 明治図書, 74-77.
- 杉本直美(2004)「『「めぐる輪」の中で生きる』の授業実践」『実践国語研究』No.258 明治図書, 57-61.
- 関下俊郎(1985)「この説明文教材でどんな認識を育てるか 小学校六年 またとない天敵 金光不二夫」『文芸教育』47号 明治図書, 92-94.
- 全国大学国語教育学会編著(2016)『国語科カリキュラムの再検討』学芸図書
- 高木まさき(1997)「論理の力を育む『他者』という視点」『月刊国語教育研究』303号 日本国語教育学会, 4-9.
- 貴島淳太郎(1972)「文章の論理的な組み立てを的確に読みとる」『教育科学国語教育』165号 明治図書, 72-77.
- 高橋泰(1972)「文章の論理的な組み立てに注意し中心の部分と付加的な部分とを読み分ける」『教育科学国語教育』165号 明治図書, 66-71.
- 竹長吉正編(1996a)『説明文の基本読み・対話読み〈1〉理論編』明治図書
- 竹長吉正編(1996b)『説明文の基本読み・対話読み〈2〉小学校編』明治図書
- 竹長吉正編(1996c)『説明文の基本読み・対話読み〈3〉中学校編』明治図書
- 田近洵一(1982)「国語科の教材論」井上尚美ほか編著『国語科の教育研究』教育出版,『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 232-241.
- 田近洵一(2013)「国語科目標論に関する研究の成果と展望」, 全国大学国語教育学会『国語科教育学研究の成果と展望 II』学芸図書, 15-22.
- 田中耕治(2005)「序章 今なぜ『教育課程』なのか」田中耕治, 水原克敏, 三石初雄, 西岡加名恵『新しい時代の教育課程』(第3版2015)有斐閣, 1-16.
- 丹藤博文(2010)「言語論的転回としての文学の読み」, 愛知教育大学『愛知教育大学研究報告 人文・社会科学編』第59輯, 1-5.
- 中央教育審議会教育課程部会国語ワーキンググループ資料3「国語ワーキンググループにおける取りまとめ(案)」(2016年5月31日)
- 塚田泰彦(1999)「学習者のテキスト表現過程を支える21世紀のパラダイム」全国大学国語教育学会『国語科教育』第46集, 8-9.
- 塚田泰彦(2009)「4 教材・学習材の研究と開発」全国大学国語教育学会編『国語科教育実践・研究必携』学芸図書, 74-82.
- 塚田泰彦(2016)「国語科教育におけるテキストと考えることとの関係の再定位」日本読書学会『読書科学』第58巻第3号, 157-169.
- 筑波大学附属小学校国語教育研究部(2016)『筑波発 読みの系統指導で読む力を』東洋館出版社
- 鶴田清司(1990)「非論理的な文章で論理的思考力を育てる」『教育科学国語教育』422号 明治

図書, 14-16.

- 鶴田清司, 河野順子(2014a)『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン 小学校編』
明治図書
- 鶴田清司, 河野順子(2014b)『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン 中学校編』
明治図書
- 寺井正憲(1986)「説明的文章教材論—文章構成に着目した説明的文章の典型と系統化—」『人
文科教育研究』第13号 人文科教育学会, 75-90.
- 寺井正憲(1987)「自然科学的な説明的文章における文章構成モデル」筑波大学人文科教育学会
『人文科教育研究』14号, 『国語教育基本論文集成』第15巻 明治図書, 500-525.
- 寺井正憲(1997)「説明的文章の基本的な指導過程」『中学校国語科教育実践講座』第6巻 ニ
チブン, 221-229.
- 寺井正憲(1998)「説明的文章教材の学習における自己世界の想像」『月刊国語教育研究』317
号 日本国語教育学会, 56-61.
- 富山哲也(2007)「反証事例を考えて読む・書く—体験を踏まえた意見文を題材にして—」, 『月刊
国語教育研究』422号 日本国語教育学会, 4-9.
- 中垣啓(2011)「ピアジェ発達段階論の意義と射程」『発達心理学研究』第22巻第4号 日本発
達心理学会, 369-380.
- 仲田湛和(1975)「教科書の取り扱いと自主教材選択の問題—国語の場合」『授業研究情報 7』
明治図書, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 242-250.
- 中村敦雄(1993)『日常言語の論理とレトリック』教育出版センター
- 長崎秀昭(2011)「説明的文章教材の文末表現『のです』に関する研究」『弘前大学教育学部紀
要』105号, 9-17.
- 永野賢(1960)「論理的思考力を高める段落指導」『教育科学国語教育』17号 明治図書, 1-6.
- 永野賢(1987)「国語科における論理的思考力」『教育科学国語教育』385号 明治図書, 17-20.
- 長畑龍介(1985)「事実と論理を追求するおもしろさを」『教育科学国語教育』353号 明治図書,
63-68.
- 難波博孝(1998)「説明文指導研究の現状と課題」『国語教育の理論と実践 両輪』26号 両輪の
会, 6-15.
- 難波博孝, 三原市立木原小学校(2006)『楽しく論理力が育つ国語科授業づくり』明治図書
- 難波博孝(2008)『母語教育という思想—国語科解体／再構築に向けて—』世界思想社
- 難波博孝(2014)「こわれたメディアとしての説明的文章教材—言論の場からみる, その問題と
克服の方向—」全国大学国語教育学会『国語科教育研究 第126回名古屋大会研究発表要旨
集』, 229-229.
- 西部直樹(1994)「教室ディベート文献の批判」, 『授業づくりネットワーク』通巻77号 学事出版,
19-24.
- 日本国語教育学会(1992)『ことばの学び手を育てる国語単元学習の新展開』全7巻 東洋館出
版社
- 日本国語教育学会(2010)『豊かな言語生活が拓く国語単元学習の創造』全7巻 東洋館出版社
- 野田守彦(2002)「自らの思いや考えを豊かに表現するための情報活用能力の育成」『月刊国語
教育研究』364号 日本国語教育学会, 16-21.
- 野村亮太, 丸野俊一(2012)「個人の認識論から批判的思考を問い直す」日本認知科学会『認知
科学19(1)』, 9-21.

- 野矢茂樹(1997)『論理トレーニング』産業図書
- 長谷川祥子(2012)『中学校新国語科 系統的指導で論理的思考力&表現力を鍛える授業アイデア24』明治図書
- 八戸理恵(2008)「情報・資料を活用し再構成する力を付けるための工夫」『実践国語研究』No. 290 明治図書, 121-125.
- 八田幸恵(2015)『教室における読みのカリキュラム設計』日本標準
- 春木憂(2017)『小学校国語科における説明的文章の授業開発とその評価—論理的に読み, 考え, 伝え合う学習指導過程を通して』溪水社
- 浜本純逸(1979)「国語教育の教材」倉沢栄吉ほか編著『教育学講座 8 国語教育の理論と構造』学習研究社, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 217-232.
- 飛田多喜雄, 野地潤家監修(1994a)『国語教育基本論文集成 第14巻 国語科理解教育論(4)説明文教材指導論Ⅰ』明治図書
- 飛田多喜雄, 野地潤家監修(1994b)『国語教育基本論文集成 第15巻 国語科理解教育論(5)説明文教材指導論Ⅱ』明治図書
- 飛田多喜雄, 野地潤家監修(1994c)『国語教育基本論文集成 第7巻 国語科教育内容論 教材・教科書論』明治図書
- 平井昌夫(1951)「これからの国語教科書のありかた」『実践国語』第2巻第10号 穂波出版社, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 311-320.
- 平櫛和男(2003)「説明力を育てる単元学習」『実践国語研究』No.248 明治図書, 58-61.
- 平林一栄(1976)「算数科教育よりみた説明文指導」『国語科教育学研究』3集 明治図書, 『国語教育基本論文集成』第15巻 明治図書, 169-183.
- 藤村宣之(2005)「9歳の壁: 小学校中学年の発達と教育」子安増生編『よくわかる認知発達とその支援』ミネルヴァ書房, 134-135
- 藤原顕(2008)「アプロプリエーションとしての国語科教科内容の学習」全国大学国語教育学会『国語科教育』第64集, 9-10.
- 藤原顕(2013)「社会文化的アプローチの展開」全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』学芸図書, 529-536.
- 舟橋秀晃(1996)『論理』を読む説明的文章指導のあり方—『国語教育基本論文集成』を手がかりに— 滋賀大国文会『滋賀大国文』第34号, 102-112.
- 舟橋秀晃(1997)『論理』を読む説明的文章指導のあり方—実践『身の回りを考える』(光村・中一)を通して— 滋賀大国文会『滋賀大国文』第35号, 81-93.
- 舟橋秀晃(2000)『論理的』に読む説明的文章指導のあり方—『国語教育基本論文作成』所収論考ならびに雑誌掲載論考にみる『論理』観の整理から— 全国大学国語教育学会『国語科教育』第47集, 33-40.
- 舟橋秀晃(2001)「情報の扱い方を身につける(他教科・総合学習に駆使される言語の基礎技術を鍛える授業開発 中学校)」『「生きる力」を育む国語学習』明治図書 No.12(国語教育別冊No.608), 54-56.
- 舟橋秀晃(2002)『批判的な構えで文章を吟味する』姿勢の育成—『論理的』に読む学習の初歩として(中一)— 日本国語教育学会『月刊国語教育研究』通巻360号, 60-65.
- 舟橋秀晃(2005)「指導の系統を意識した教材配列を—『話題』にとどまらせることなく—」日本国語教育学会『月刊国語教育研究』通巻404号, 16-21.
- 舟橋秀晃(2007a)「学び合い高め合う国語学習の展開—『論理的』に読む力を伸ばすための説

- 明的文章教材の開発—」『滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要』第49集, 12-16.
- 舟橋秀晃(2007b)「『読むこと』の授業づくり 中学校 『分かりやすさ』を吟味する読みをこそ—『分かりやすさ』が『正しさ』をゆがめていないか—(特集 『読むこと』の授業を考え直す)」『日本語学』明治書院 26巻14号, 46-58.
- 舟橋秀晃(2009a)「説明的文章を読み、意見文を書いて読み合う授業の実践—読み書き関連指導の課題を踏まえて—」日本国語教育学会『月刊国語教育研究』通巻446号, 16-21.
- 舟橋秀晃(2009b)「是々非々の構えで主張と根拠の点検を(特集 移行期・新国語科の重点指導 説明的な文章の解釈力をつける指導の開発 中学校第3学年)」『実践国語研究』明治図書 通巻296号, 59-61.
- 舟橋秀晃(2009c)「『論理的』に理解し表現する力を伸ばす指導のあり方—本校『情報科』での実践を踏まえて考える、国語科に必要な指導法と教材—」全国大学国語教育学会『国語科教育』第66集, 51-58.
- 舟橋秀晃, 北村拓也(2010)「〈伝達〉から〈探究〉へ学習を変える工夫—領域別ポイントと授業事例—: 学び合い高め合う国語学習の創造(3)」『滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要』第52集, 20-27.
- 舟橋秀晃(2012a)「『理由づけ』に着目して『論理的』に読む説明的文章の授業—『学び合い高め合う国語学習』を目指して—」『滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要』第54集, 14-19.
- 舟橋秀晃(2012b)「“持つべき問い”を育てる発問をこそ(特集 おや?なぜだろう?子どもの問いを引き出す授業づくり 中学校・実践授業の展開 2学年)」『実践国語研究』明治図書 通巻315号, 57-59.
- 舟橋秀晃(2013)「言語活動を通して『論理的』かを判断する基準や観点の指導を—日常言語の論理性を底上げするために—」日本国語教育学会『月刊国語教育研究』通巻496号, 16-21.
- 舟橋秀晃(2015)「国語科『読むこと』教材のあり方—小中学校学習指導要領にみる教科書教材ならびに教科書外教材の位置づけの変遷を踏まえて—」『大和大学研究紀要』第1巻, 161-171.
- 舟橋秀晃(2016a)「中学校国語教科書における説明的文章教材のカリキュラム性—平成28年度版第1学年にみる『事実と意見』の表現から—」『大和大学研究紀要』第2巻, 239-248.
- 舟橋秀晃(2016b)「自己の実践開発の文脈から探る『論理的に読む』学習指導の系統性—その1・中学教員前半期に得た実践的知識と課題—」広島大学国語文化教育教育学講座『論叢 国語教育学』第12号, 23-35.
- 舟橋秀晃(2017)「中学校第2学年国語教科書における説明的文章教材のカリキュラム性—平成28年度版にみる「理由づけ」の特徴から—」『大和大学研究紀要』第3巻教育学部編, 21-31.
- 古田 拓(1955)「教科書の位置」古田 拓『国語教材研究』法政大学出版局, 『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 337-344
- 保坂裕子(2001)「総合学習カリキュラム創造におけるモデルの協働構築プロセス—ある公立小学校における教師の語りを通して—」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第47号, 248—260.
- 牧岡優美子(2008)「自分の考えを形成するために読む」『実践国語研究』No.291 明治図書, 42-45.
- 牧野由佳里(2008)『「議論」のデザイン—メッセージとメディアをつなぐカリキュラム』ひつじ書房

- 増淵恒吉(1970)「国語科の資料」大学国語教育研究会編『国語科教育学入門 小学校編』有精堂、『国語教育基本論文集成』第7巻 明治図書, 115-125.
- 間瀬茂夫(1997)「国語科教師による説明的文章の論理のとらえ方—インタビュー調査を通して—」『鳴門教育大学研究紀要(教育科学編)』12巻, 29-39.
- 間瀬茂夫(2001)「間テクスト性に注目した説明的文章の読みの学習指導論の構想」島根大学教育学部国文学会『国語教育論叢』, 15-27.
- 間瀬茂夫(2009)「説明的文章の読みにおける『論理』の再検討」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部』第58号, 103-111.
- 間瀬茂夫(2011)「説明的文章の論証理解における推論—共同的な過程における仮説的推論を中心に—」全国大学国語教育学会『国語科教育』第70集, 76-83.
- 間瀬茂夫(2013)「理解方略指導研究」全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と課題Ⅱ』学芸図書, 233-240.
- 間瀬茂夫(2017)『説明的文章の読みの学力形成論』溪水社
- 松井孝雄(1995)「第9章 推理」森敏昭, 井上毅, 松井孝雄『グラフィック 認知心理学』サイエンス社, 190-208.
- 松下佳代(2000)「第二章 『学習のカリキュラム』と『教育のカリキュラム』」グループ・ディダクティカ編『学びのためのカリキュラム論』勁草書房, 43-62.
- 松下佳代(2010)「解説」エンゲストローム・Y, 松下佳代・三輪建二監訳(2010)『変革を生む研修のデザイン—仕事を教える人への活動理論』鳳書房, 187-202.
- *邦訳書のための書き下ろし
- 松田雄輔, 坂東智子(2017)「説明的文章の単元計画についての研究—単元計画指標モデルの作成を通して—」『山口大学教育学部研究論叢 (第1部)』山口大学教育学部 第66巻第1号, 69-80.
- 松本修(2013)「読むことの教材論研究」全国大学国語教育学会『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』学芸図書, 169-176.
- 宮城瞳(2013)「知りたい!聞きたい!伝えたい!言葉の果てまで行ってみよう!」『実践国語研究』No.319 明治図書, 36-38.
- 村田久美子(2015)「目的に応じて要約ができる児童の育成をめざして」『実践国語研究』No.328 明治図書, 34-36.
- 望月理子(2013)「指導と評価の一体化をめざして」『月刊国語教育研究』499号 日本国語教育学会, 8-9.
- 森田真吾(2014)「多様な言語材を活かした国語科指導の可能性について(1)—国語教科書と多様な言語材との関係—」千葉大学教育学部『千葉大学教育学部研究紀要』第62巻, 239-247.
- 森田信義(1984)『認識主体を育てる説明的文章の指導』溪水社
- 森田信義編著(1988)『説明的文章の研究と実践—達成水準の検討—』明治図書
- 森田信義(1989)『筆者の工夫を評価する説明的文章の指導』明治図書
- 森田信義(1991)『説明的文章教材の実践研究文献目録 第二集』溪水社
- 森田信義(1996)「『論理体験』としての読みの実現」『教育科学国語教育』519号 明治図書, 14-18.
- 森田信義監修(1997)『国語教育関係雑誌論文等総目録Ver. 9703』フロッピーディスク 溪水社.
- 森田信義(1998)『説明的文章教育の目標と内容—何を, なぜ教えるのか—』溪水社

- 森慎(1999)「提案 論理的思考力をつける説明的文章の読み」『国語の授業』152号 一光社, 4-7.
- 森本弘一, 大井邦裕, 岡本歩未(2007)「小学校, 中学校国語教科書と理科学習の関連について」『奈良教育大学紀要』第56巻第1号(人文・社会), 135-139.
- 文部科学省(2008)「第2章第1節 教育課程の意義」『小学校学習指導要領解説 総則編』PDF版, 10-11.
- 安富江理(2006)「比べ読みで説明する力を育てる」『実践国語研究』No.274 明治図書, 21-24.
- 山住勝広(1998)『教科学習の社会文化的構成—発達的教育研究のヴィゴツキー的アプローチ』勁草書房
- 山住勝広(2004)『活動理論と教育実践の創造 拡張的学習へ』関西大学出版部
- 山住勝広(2008)「革新的学習と教育システム開発の協働主体形成」関西大学人間活動理論研究センター『CHAT Technical Reports No. 7. 2007年度 研究報告』, 25-41.
- 山元悦子(2016)「第2章第3節 話すこと・聞くことの特徴に鑑みたカリキュラム作りの試み—出来事の瞬間を捉え導く編み上げ型カリキュラム—」全国大学国語教育学会編著(2016)『国語科カリキュラムの再検討』学芸図書, 41-46.
- 山元隆春(2016)「第1章第1節 読み・書きの将来と国語科教育の課題」全国大学国語教育学会編著(2016)『国語科カリキュラムの再検討』学芸図書, 5-8.
- 吉原順平(1990)「実験の論理と説明の論理」『国語の授業』98号 一光社, 67-70.
- 米盛裕二(2007)『アブダクション—仮説と発見の論理』勁草書房
- 若木常佳(2011)『話す・聞く能力育成に関する国語科学習指導の研究』風間書房
- 渡辺敦(2004)「情報の発信と受信」『実践国語研究』No.250 明治図書, 95-98.
- 渡辺健介(2007)『世界一やさしい問題解決の授業—自分で考え, 行動する力が身につく』ダイヤモンド社
- 渡部洋一郎(2016)「Toulmin Model: 構成要素をめぐる問題と接続のレイアウト」日本読書学会『読書科学』第58巻第1号, 1-16.